

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2019年11月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第609号

この秋、久しぶりに地方教区の教師研修会に招かれた。10年ほど前までは、それこそ応接の暇がないほど、各教区に出かけて行って、それぞれ地域の教会の様子や牧師たちの働きに接してきたが、最近では当方の年齢のこともあり、減多にそういうことはなくなつた。

先ず驚かされたことは、牧師の世代交代が予想以上に進んでいることである。もちろん顔見知りの懐かしい友人たちもいるが、多くは20歳代から30歳代の牧師たちに様変わりしていた。その若い牧師たちを囲む地域の教会の様子がまた大きく変化している。信徒の高齢化により、小規模教会の維持が困難になり、専従牧師がいない教会が増えているのだ。研修会が行われた地区でも、6つの教会・伝道所の内、三人の専従牧師しかない。したがって、一人の牧師がいくつもの教会・伝道所を代務者として兼牧している。既にこの教区では、いくつかの教会の廃止・統合が行われており、10年後には維持できる教会・伝道所の数は三分の二に減るのではないかと

真顔で話していた。そのような地方教会の現実の中で、特に若い牧師たちは、伝道・牧会に行き詰まり、孤立しがちであることが訴えられた。これらのことはある程度予想していたが、実際の地方教会の現実に触れて想像以上に厳しい状況にあることが伺われた。

地方の教会を訪ねて 現在の教会の課題



戒能 信生

関東活動センター運営委員長

私は、与えられたテーマ「教団の宣教論の推移とその課題」について講演し、「世に仕える教会」としての使命に新しい希望を見出し、いかねばならないことを力説したが、どれだけ彼らの力になり得たのだろうか。それで、10年以上以前、やはりある過疎の地区の教会を訪ねた時のことを思い出した。

疎地の末寺に家族と共に住み込んで、受洗者を何人出したか、礼拝出席者が何人増えたかというようなことにかかわりなく、その町に仏灯をともし続けます。先生たちも、御苦勞ですが是非そうしてください。信徒を増やすのは、人口が増えている都市部の教会の責任です。」

もちろんこれは咄嗟に思いついた言い逃れに近い返答である。しかし現在の過疎地の教会が置かれている現実には、私たちの予想を超えて厳しいようだ。このような地方の教会・伝道所で頑張っている若い牧師たちをなんとかして励ましたいと思つた。

と同時に、L・ボフというカトリックの神学者の次の言葉も心をよぎつた。「生態系と環境の破壊の脅威こそ、私たちの時代の最も重要な宗教的・霊的な課題ではないだろうか。基本的な問題は、もはや何か特定の宗教的伝統の将来の問題ではない。どれほど多くの宗教が、未だに自らのメンバーの拡大に固執していることだろうか。」(『解放の道』)

た。その時も、講演が終わり、ホッと温泉に入っているのと、その地区で働く何人もの年配の牧師たちに囲まれた。薄暗い露天風呂の中で、こちらも相手も皆裸である。そしてこう聞かれたのだ。「私たちはどうしたらいいのしょうか。この地区に来て10年になるが、教会員は半分減つ

住むのが職業と書きます。過

(日本基督教団千代田教会牧師)

関東活動センター

●2019年度 関東フオーラム 宗教対話Ⅰ
 「日本キリスト教史を読む」Ⅲ(昭和篇)
 オプショナル・ツアー③
 「大正・昭和期に創立された教会を訪ねる」
 東中野教会・カトリック麹町聖イグナチオ教会

2019年10月24日(木)
 ナビゲーター…戒能 信生さん



新教、旧教の2教会を訪問
 萩野 瑞
 先頃(10/24)、日本キリスト教団・東中野教会及びカトリック麹町・聖イグナチオ教会を訪問しました。この訪問ツアーは、NCA連続講座「日本キリスト教史を読む」(講師、戒能信生牧師)のオ

プシヨナル・ツアー第3回として実施されました。ツアー参加者21名。当日午前に東中野教会を、午後に聖イグナチオ教会を訪問しました。東中野教会では、浦上充牧師から詳しい説明を伺いました。同教会は1910年創立、110年の歴史があり、その生い立ちには二葉保育園(野口幽香創立、日本最初の保育園)と深く関わっており、当初の教会名は「二葉独立教会」でした。1921年に由木康牧師が同教会に招かれ宣教・牧会を開始。以後の同教会の歩みは極めて多彩で、主な事項を以下に記します。1923年関東大震災後の対応、1928年会堂献堂、1934〜1938年隣接地購入し会館建設、大オル

ガン設置、1941年日本基督教団創立(それは個々の教会の合同ではなく教派の合同であった)に伴い二葉独立教会は単立教会であるため全国の単立教会と同盟を組織し一ブロックとして教団に参加、戦後1947年桜山教会と合併し「東中野教会」を設立、1954年『礼拝と音楽』創刊、キリスト教音楽学校が東中野教会に移転、1966年新会堂献堂(六角形と正三角形モチーフのデザイン建築)、等。

聖イグナチオ教会では、ツアー参加者を三つのグループに分け、3人のボランティアが教会内を案内してくれました。主聖堂はじめ3聖堂があり、戦後建てた鐘楼には3つの鐘が。会員数3千人、常時出席2千人とのこと。主聖堂床下に納骨堂があります。

「日本キリスト教史を読む」オプショナルツアーに参加して
 佐藤恵理子

10月24日(木)に行われた、頭書のツアーに参加した。「大正・昭和期に創立された教会を訪ねる」との趣旨で、戒能信生牧師の引率の下20名ほど

の参加であった。

午前中は、東中野教会で今年4月より赴任された浦上充牧師より、お話を伺った。讚美歌作者・訳詞者として

有名な由木康牧師が、戦前の教会初期から牧会にあたられた。現会堂の建築は1966

年で、コーディネートアルスタイル(説教卓と聖書卓を左右に分け、中央に聖餐卓を置く)の採用は、当時の最新の礼拝学を反映したものであり、由木牧師の礼拝学への見識の深さを示している。

また、由木牧師手書きの戦時中の週報を見せていただいた。真珠湾攻撃の後から、西暦から皇紀に年号表記が変わった。礼拝は国民儀礼(皇居への黙礼)に始まり、式順の中に懺悔(実際は黙祷とのこと)の項目がある。敗戦時に戦時下の資料が焼かれたことも多かったなか、戦時中の週報をそのまま残した由木牧師の心中を思う。

午後は、カトリック麹町聖イグナチオ教会を訪問した。主聖堂、2つの小聖堂、クリプタ(地下聖堂・納骨堂)を、案内係の信徒の方に先導され見学した。日曜日だけで6回

のミサ(礼拝)があり(外国語礼拝を含む)、1回のミサに3千〜5千人の出席者があり、聖餅の消費量は1カ月4万5千枚とのこと。

見学を引き続き、李神父よりお話を伺った。聖イグナチオ教会では、7か国語で礼拝が守られており、南米系の方、ベトナム人の方の出席が増えている。

李神父ご自身も韓国で神父になられたが、日本の教会の神父であることについて、ラグビー日本代表の資格が人種を問わないことを引いて、その人個人として教会に受け入れられる大切さを語られたのが印象深かった。ツアーの最後で、世界に目を向けよ、とのメッセージをいただいた気がした。



関西セミナーハウス活動センター

●2019年度 修学院フォーラム「社会」第3回

「平和を考える3」

東京外国語大学大学院教授 伊勢崎 賢治さん
2019年8月31日(土)



「平和を考える」シリーズでは、キリスト教界とは縁遠いとも思われている、政治的社会的平和思想を取り上げてきた。今回は、国内外において、現在最も注目されている伊勢崎賢治先生をお招きし、日米安保条約と地位協定、憲法九条と自衛隊問題を探り上げご講義いただいた。何と二時間半に亘り、時間を忘れ講義に聴き入った。

「日本人の「生存権」(個人の基本的な権利)と「自衛権」(国家に固有の権利)とは異なること。」「自衛の戦争」こそが、国際法上、歴史的にも最も制約を受けており、一度誤って自衛のためであれ「交戦国」となれば、国際人道法上の戦争犯罪国・犯罪人に問われかねない危険性を秘めていること。そして派遣された自衛隊員が誤って民間人を殺傷した場合、自衛隊員を守る(裁く)法律がそもそも日本にないこと(法の欠缺)が指摘された。米国が安全保障の戦略を練り、日本は米国に従属するかのようであてがわれた戦略の中で、戦術のみを展開させるのではなく、対中国、対北朝鮮問題においても、アレルギーを示すことなく憲法九条や核について議論し、現実を見開いて、日本自らが、世界と日本の平和と安全保障の戦略を練る必要があることを学んだ。

●2019年度「開発教育セミナー」第3回

「多様性が生きる社会」

「人権としての言語から考える」
上智大学外国語学部ドイツ語学科
教授、同大学院グローバルスタディ
ズ研究科国際関係論専攻主任
木村 護郎(クリストフ)さん
2019年9月7日(土)〜8日(日)



英語を使って話せる人は世界の3割以下なのに、日本では英語一極化が進んでいる。それは、コミュニケーション圏の拡大という恩恵をもたらす反面、情報の偏りをもたらす。世界人権宣言でも、言語による差別は禁止されている。また、全員に膨大な英語学習を課しているが、一定以上は通訳に求めればよいと講師は言う。一方で、少数言語への軽視から2週間に1言語が失われるという中、それは人類の知恵や社会関係の喪失を意味すること、先住民の言語復興は尊厳の回復につながることを示して、多言語主

英語を使って話せる人は世界義社会をイメージさせてくれる。言語権とは、母語を使用する権利と公用語を学習する権利のことである。多言語教育は、ドロップアウトを防ぎ、個々の能力を伸ばす。効率的だと講師は述べた。また、国土の1/4を失い2割以上が「難民」を経験したドイツは、加害者であり被害者でもあったので、ポーランドの司教団が「私たちは赦します。そして赦しを請います」と先に一歩を踏み出し、ドイツも罪を

認めて譲歩した事例は示唆的だった。現在、ドイツの高校1年生は両国共通の歴史教科書を1年かけて学んでいる。過ちを認める強さを持ち、ひとりよがりでない対話的、多面的な歴史観を育てる大切さを再認識した。



●共催プログラム

「エキユメニカル・ネットワーク第3回協議会」

主催：エキユメニカル・ネットワーク(EINET)
2019年8月20日(火)〜21日(水)

「日本におけるエキユメニカル運動の課題と展望」現場からの問いかけを主題に、韓国からのゲストも含め50名近くが参加した。初日は、深田 未来生同志社大学名誉教授の基調講演、国内外の教会協議会の報告、2日目は4名のパネラーによる現場からの声を聴くシンポジウムに続き、総会が行われた。最後に、共同声明文が採択された。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2019年度聖書を読む講座I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第2期)(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑧12月10日、⑨2020年1月14日 火曜18:30~20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホール222

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

■**2019年度聖書を読む講座II**

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読む一この時代の中で、聖書からのメッセージを読み解く」

第1期「イエスの教えと生きざま～福音書から」

講師：上林順一郎さん

日時：③11月27日、④2020年1月29日 水曜 14:00~16:00(全5回)

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1,000円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」Ⅲ(昭和篇全7回)

第7回「隅谷三喜男の生涯とその人格的信仰」

講師：戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

日時：12月12日(木)14:00~16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1回500円

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館1F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

■**2019年度研究会**

「さらに豊かな礼拝のために～言葉をお届けするトレーニング」(全10回)

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会担任教師)

日時：⑦12月17日、⑧2020年1月21日 火曜 18:00~20:00

会場：日本基督教団巢鴨ときわ教会

参加費：1回1,200円

■**2019年度関東フォーラム今日の課題II**

「ジャーナリストがその本音を語る」第2回「佐々木宏人に聞く 著書『封印された殉教』について」

講師：佐々木 宏人さん

日時：11月29日(金)18:30~20:30

会場：カフェスナック ViA (東京都新宿区早稲田2-3-21)

参加費：1,500円(ワンドリンク付き)

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：12月8日、1月休会

日曜 9:00~15:00 受付
 於：関西セミナーハウス

年会費：4,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2019年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」

座長：榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時：⑧12月2日(火)13:30~16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1,500円 学生500円

■**2019年度開発教育セミナー**

第5回「在日コリアンの歴史から学び、未来を考える」

<フィールドワーク八瀬・岩倉エリア>

講師：水野 直樹さん(元京大大学教授・同志社大学非常勤講師)

日時：11月30日(土)12:50~12月1日(日)12:00

集合：叡電「出町柳」駅改札前

第6回「"その日暮らし"の経済から考える私たちの社会～香港の地下経済と日本の未来～」

講師：小川 さやかさん(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

日時：12月14日(土)16:00~15日(日)12:00

宿泊・会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)、京都市宿泊税200円別

■**2018年度修学院フォーラム「社会」**

第4回「エネルギーを考える第8回」

「核に依存しない世界へ向けて」

講師：近藤 恵さん(合)AgroKraft 代表社員、環境エネルギー政策研究所福島事務所長

牛山 泉さん(足利大学理事、大学院特任教授)

日時：2020年1月12日(日)16:00~13日(月祝)16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：14,000円(学生5,000円)1泊3食込、宿泊税200円別

賛助会費・寄付金報告

2019年10月1日~10月31日(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

◆**賛助会費**

大鹿 康廣 3,000
 松岡 俊彦 5,000

◆**寄付金(クリスマス寄付金を含む)**

伊藤 博子 4,000
 林 律 5,000
 坂口 みどり 3,000
 池内 友子 2,000

◆**神学生プログラム寄付金**

川北 かおり 10,000
 松原 千里 2,000
 横野 朝彦 10,000
 斉藤 洋子 4,000
 大橋 祐治 3,000
 久保田 愛策 5,000
 宮本 旻祐 5,000
 小久保 正 10,000
 並木 浩一 10,000
 島田 恒 10,000
 河原田 美哉子 5,000
 竹中 百合子 5,000
 斉藤 洋子 3,000
 只野 哲 5,000
 神保 正男 10,000

◆**関西セミナーハウス**

◆**寄付金**

牛藤 宣夫 10,000
 武藤 高司 30,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

◆**賛助会費**

島田 宗洋 5,000
 八杉 恵 5,000
 岡安 茂祐 5,000
 荒井 加代子 30,000
 村上 みか 10,000
 金山 顕子 5,000
 奈倉 道隆 3,000
 西川 淑子 5,000
 柳原 清美 5,000

◆**寄付金**

山崎 和明 3,040
 シュペネマン・クラウス 100,000
 日本基督教団西が丘教会 11,100
 村上 みか 20,000
 田中 義信 3,000
 比嘉 美智子 3,650
 日本基督教団室町教会 5,000

以上感謝をもってご報告申し上げます。
 (もみじまつり寄付金は次号掲載します)